表　「人格」を軸としたキャリアパス

発達段階		成長のイメージ （子どもと保育者・職員の成長を重ねてイメージするために）	成長のフィールド
1	保育現場で流れている時間に身を委ねる	時間に身を委ねる。そうして、自分の中に湧き上がってくる感覚を一つひとつ大事にして生きる（野性の主体性）。中動態的なあり方を生きる。（第２回） カラダで、その時間を満喫する。（第６回） 「快・不快がないまぜになった、そのアクチュアリティを生きよう」 人間を超えたもの（風、陽射し、水の冷たさ、泥のヌルヌル）の力を借りながら、生きている実感を味わう。	
1.5	心理的安全性の実感	無知や無力をさらけ出すことで、貢献している。 「できない」「わからない」「助けて」を表出することで、貢献している。（第５回）	母性的なサポート 「声をかけてくれたら応えるよ」 信頼感・安心感
2	「個人知」の発揮	「1.5」の上で、「周囲の期待」を横に置いておいてくれる。 しっかりと「自己決定」「自己発揮」「自己主張」（イヤイヤ期）をしてくれる。自分の「想い」を確かめ、口にする。（第７回） 【個人知】【その人なりのやり方、理解】（第５回）	
2.5		「自分のやりたい保育（仕事）やりたいこと」 と 「自分に期待されている保育（仕事）やらなきゃいけないこと」との間で葛藤してくれる。（第３回）	父性的なサポート 「君はどうしたいんだ？」
3	「個人知」を 「協働知」へ	「保育園全体」を踏まえて「自分に期待されていること」を自分の力でつくってくれる（もちろん、相談には乗るよ）。 【協働知】【組織の中でのやり方、理解】 「自部門やグループに期待されていること」「自分に期待されていること」を理解し、自分たちで、自分たちのルール（順番、計画、約束、役割）をつくる。同時に、想い・願いやイメージも共有する。（第５回、第６回、第７回） グループ内における自己の**役割**を認識した上で、**時間的見通し**をもち自ら業務**計画**を策定し、主体的に取り組んでいる。（第４回）	家族的な環境 集団の中での役割を見つける
4	「一般知」の獲得	一つひとつの仕事・任務を、単なる作業（task）ではなく、仕事・作品（work ）へと高める。 その際、自分の「こだわり」を大事にする。 その「こだわり」を作品にするために、試行錯誤をしながら（**失敗**と成功を繰り返しながら）、「**広い世界**で通用する知識・技術（やり方）・情報」（専門知）を獲得する。（第３回） また、専門知を生かしながら、チームの仕事を練り上げ、メンバー・保護者・クライアントへの**発信**を始めてくれる。 【一般知（理論知）】【専門家としてのやり方、理解】	一般社会に出る 広い世界に飛び出す
5		専門家としてのあり方のみならず、「人としてのあり方・生き方」を模索する。 そこから「生き方の軸」、「目指すべき社会のあり方」や「仕事を通じて、社会的に生み出したい価値」を定める。その軸を、複数見つける。仕事を通じて、どういう生き方をしたいのか、それを考える。	生き方の軸を定める
6		「人としてのあり方」「生み出したい社会的な価値」を共有し、更新し、確かめ合える人と**パートナーシップ**をつくる。（第４回）	生き方を確かめ合う
7		Ⓐメンバーが安心して「無知・無力の露呈」ができる雰囲気をつくる（※「１」）。 Ⓑ毅然と、しかし、寛容に「メンバーに期待していること」を伝えている（※「2.5」）。 Ⓒ「生み出したい社会的価値」を次の世代と共に実現していく。	次世代の成長を支える社会でのリーダーシップの発揮

※　7は、「園長、副園長、主任」が一体となって行えばいい。園長：老子（大らか）　副園長：孔子（こまやか）